

～2024 全国支部担当者会議報告～

事務局長 澤口 勇治

令和6年12月1日(日)、品川インターシティホールを会場に「2024年度全国支部担当者会議」が開催されました。今年度も対面を基本とし、会場参加46名、Zoom参加19名の65名の方(ヘルパー除く)が参加され、山田支部長(理事)と参加させていただきました。

今年度の会議のテーマは、「災害対策」です。

11時から始まった会議では、恩田会長から「今回のメインテーマは災害対策です。ご存知の通り天災は頻繁に起こっています。我々は公的な助けが来るまでは自分の身は自分で守る必要があります。これは現実です。有事には特別扱いは期待出来ません。自分たちで守らなければなりません。本日はその危機感と覚悟をみなさんと足並みを揃えたいと思います。」との挨拶がありました。

I・本題に入り常務理事で事務局長の岸川氏から日本ALS協会の定款や成り立ち、支部の位置づけ、会員数の推移、収支状況等の説明がありました。

続いて啓発広報部の前田理事から令和7年1月に開催される写真展『FACE・ALS—生きる勇気—』が東京交通会館で開催されることと新入会申込書が作成された報告がありました。

II・企画調査部会の伊藤副会長からALS医薬品最新情報が報告され、その中で12月2日厚生労働省薬事審議会医薬品第一部会でSOD-1 ALS治療薬トフェルセンについて審議されると報告がありました。(結果、薬事審議会です承され、厚労大臣の承認が必要)

III・災害対策委員会の小林理事から第一回災害対策部会報告があり、
・対応は自助努力を基本とし、①171伝言ダイヤル利用促進 ②蘇生バックの練習と車いす外出時の帯同 ③居住地のハザードマップ確認や家屋耐震、家具固定、地域連携などは不変である。

IV・長野県支部太田氏から「在宅避難モデル体験会に関わる長野県支部の取り組み」について以下のとおり報告がありました。

1. 在宅避難モデル体験会の実施
2. 地域における在宅避難における確認の実施
3. 保健所との連携
4. ポータブル蓄電池等の貸与とアンケートの実施

V・里中副会長から鹿児島県支部の取り組みについて報告がありました。

研修会のグループワークから…

- ①アンビュの準備もしていない患者が多かった!! アンビュも使いこなせない!!
日頃から使用していないといざというときには使えない。劣化に気をつけて!!
- ②救急車は当てにできない!! してはいけない!!
- ③停電対策 蓄電型の照明器具の取り付け
- ④プロパンガス利用した発電機の利用 ⇒ 最低必要電源の確保
- ⑤トイレの構造で対策が違ってくる

災害時は、支援者も被害者です!!

昼食を挟んで第二部では高野副会長から「新サイト ALS 療養の知恵袋（仮称）」の企画概要とスケジュール（仮）の説明がありました。支部活動アンケートについて、回答率が約 70%で来年の支部担当者会議では 100%のものを配布したい。各支部の活動を見える化をして、支部活動改善に活かして欲しい。

その後、各支部から災害対策について報告がありました。各支部とも共通して「避難訓練が出来ていない」問題点が浮き彫りになったことと、原発事故に伴う避難について報告があった支部もあり、地域性を感じました。福井県では広域避難先に奈良県が指定されている地域もあるということでした。

16 時 00 分 高野副会長より閉会の挨拶があり、短い時間でしたが、有意義な会議を終了することが出来ました。理事・事務局のみなさん!! 大変お疲れ様でした。

